

阿蘇くじゅう国立公園は2014年12月4日に公園指定80周年を迎えます。それに先駆け、10月4日(土)に九重町長者原にて、記念式典と記念イベント「くじゅうフェス in 長者原」が開催されました。当校のブースでも観察して挑戦する「生きものクイズ」をはじめ、「飯田高原の生きもの展示」「トキなりきり体験」などを実施して、たいへん多くの方にご来場いただきました。ありがとうございました！



こもれびのさす雑木林や芝生に囲まれた会場。笑顔や楽しい声があふれる1日でした



記念式典では、くじゅうの自然を守ってきた方々の表彰や、坊ガツル讃歌の大合唱も♪



九重の高原から さとばる時間

九重ふるさと自然学校通信

Vol. 29

2014. 冬号

九重のさとばる【里の草原】で育まれてきた自然や文化、そしてそこに流れるようなのんびりとした時の流れを感じてほしいという願いを込めて、「さとばる時間」と名付けました。

さとばるに Go!

「さとばる」(九重自然教室)は、九重の自然を楽しむ!学べる!自然学校のフィールドです

「野鳥かんさつ」ミニ講座

落葉し、視界が広がる冬はバードウォッチングに最適!



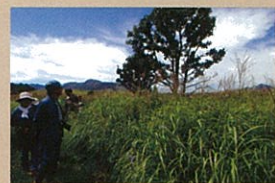
ユーラシア大陸出身! ジョウビタキどえす

- 11/23 (日): 飛来した冬鳥に会いに行こう 双眼鏡 貸出あり
- 12/14 (日): 懸命に越冬する鳥たちに会いに行こう

時間: 10:30 から約1時間
 参加費: 100円
 場所: さとばる
MAPはこちら
 大分県玖珠郡九重町田野 1726-143
 申込: 不要



ミニ講座 植物レポート



9/14(日)

オミナエシやワレモコウ、マルバハギやサワヒヨドリなど秋の野花を楽しみました。早足で移ろう高原の季節の中で、自然が魅せる一期一会の美しさを心に留めていただけたと思います。



スタッフ池田の フィールド手帖

温故知新。先代からの知恵と技をつなごう **畑の巻**

伝統農法! 堆肥こづみ

9月28日(日)、さとばるの畑にて「堆肥こづみ」を作りました。堆肥こづみとは、堆肥をつくるために草や糞などを交互に重ね、最後に雨よけ用の屋根を乗せたものです。地元の方に習い、牛糞と畑の周りの草を踏んで柔らかくしながら積み重ね、屋根の素材も土に還りやすいようススキのみで作りました。その場所で育ったものだけで作られた堆肥こづみは、土着菌等によって分解され、またその土に戻っていきます。先代からの知恵を活かしつつ、自然を無駄なく循環させながら、さとばるの畑を育てていきたいと思っています。



こうやってくびるんで。

特集 冬の里山風景



- ☆秋のプログラム実施レポート
- ☆冬も自然体験しに来ませんか?
- ☆祝 80周年 阿蘇くじゅう国立公園
- ☆里山に残る伝統の技! 堆肥こづみ

九重 冬ものがたり

九重でしかつくれない冬のおもいで。

【編集・発行】

さとばる時間 2014. 冬号
2014年11月14日発行

九重ふるさと自然学校 (運営: 一般財団法人セブンイレブン記念財団)
 〒879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野1624-34
 TEL: (0973) 73-0001 FAX: (0973) 79-3434
 Eメール: kujyu-sizengakkou@7midori.org

当校MAPはこちら▶▶



特集

九重の冬 里山の風景

わらぞうりづくり



わらぞうりを見ることは稀な今日ですが、昔はこれを編む姿が飯田高原の冬の代表的な風景でした。今では少数の作り手によって、細々と作られている程度です。わらぞうりに使うわらは、まず柔らかさが重要で、柔らかくないと編むときに折れたり、出来ばえがきれいになりません。材質の柔らかいツクシボダイジュの木髓で、ゆっくり時間をかけて打つと良質のわらができるそう。鼻緒にはトウモロコシの皮と一緒に縄(な)うと指あたりが滑らかで、履き心地がよくなるとか。先人は里山の自然をよく観察し、利用していたことに気づかされます。



ほたき棒づくり

春は野焼きの季節。火を入れる前のひと仕事、毎冬の「ほたき棒づくり」です。草原から山や家屋への延焼を防ぐために、ほたき棒で残り火をたたき消します(現在は、「ジェットシューター」と呼ばれる背負式消火水袋の方が主流)。材料は、青い竹と葛(かずら)。竹の先端を均等に割り、そこに葛を結って扇形にします。飯田高原でも地域によって素材に違いがあり、先端に布を巻きつけ水に濡らして使うものもあります。



寒ざらし粉づくり



1~2月の小寒や大寒の頃に行なわれます。もち米を水に浸して軒下に置き、3日~1週間ほど寒風にさらし凍らせます。その後、水気を切って乾燥させ、粉にしたものが「寒ざらし粉」です。寒い地域ならではの伝統製法で、作り方はさまざま。この粉は虫が付にくくなる上、団子にするとモチモチふわふわの柔らかい食感になり、とっても美味!九重では団子汁に入れたり、端午の節句のちまきにして味わいます。今では機械で粉にするのが一般的ですが、昔は石臼や臼と杵で叩きながら何日もかけて粉にしていました。



雪の上に足あとみつけ!



雪が積もった時の楽しみといえば、動物たちの足跡さがし!写真はノウサギの足跡です。まるで「ケン・ケン・パツ」しているみたい。この足跡を追ってみると、突然方向を変えることがあります。その逆方向には、キツネの足跡が。動物同士の生存競争も垣間見られます。足跡の他に常緑の木々が雪をかぶるのも、九州・九重ならではの冬の自然観察ですよ。

どんど焼き



小正月(1/15)に行なわれる火祭り。正月の門松やしめ飾り、書初め、お守りなどを焚きあげ、無病息災や五穀豊穡を祈る伝統行事です。「書初めが火で高く舞い上がると、習字が上達し勉強ができるようになる」、「どんど焼きの火で餅を焼いて食べると、病気や虫歯にならない」という言い伝えもあります。

九重の様々な分野で活動する人にお話を聞く連載記

くじゅうびと

Vol.3



人生とともに
わら細工づくり
時松 又夫さん

「今思えば、わら仕事が好きだったとき、続けてこれたんじゃろうなあ」。わらじや雪靴、福俵にしめ飾り…。「またおさん」の愛称で呼ばれる時松又夫さんは、今では飯田高原でも数少ないわら細工の「作り手」だ。

又夫さんは、現在86歳。もともと百姓の家に生まれ、小さい頃から70年以上にわたり、冬はわら仕事に取り組んできた。わらを縄(な)って牛を引く「縄」を作ったり、お正月の前には「しめ飾り」を作ったり、新しく家を建てる際には五穀豊穡の象徴「福俵」を作ったりと、暮らしの中にわら細工があった。

昔は冬になると、数軒の農家で作った「夜なべ小屋」に夜な夜な人が集まっては、わら仕事をしていたそう。囲炉裏でたき火をして、暖を取りながらの作業だった。特に、農家に奉公していた「おとし(男衆)」は、「あしなか」と呼ばれる長さの短いわらじをひと冬で50足も100足もつくっていた。その数は、お給料(年棒)の金額にならって、50円なら50足というもので、それは、雇用主との暗黙の了解で行なわれていたらしい。現在では、化学繊維の縄やゴム製のスリッパなどが開発されているが、ほんの数十年前は、わら細工が人々の暮らしを支えていたのだ。

「わら細工は、あげたい人の顔を思い浮かべながら作るんよ。女の人にしかあげんばい。」と茶目っ気たっぷりの又夫さん。わら仕事は手がかぶれやすいそうで、70年以上もわらと対峙してきたその手は、ぶ厚い中にもやさしさを感じるものだ。「いまま少し気がかりなのは、わら細工の作り手。飯田でも作れる人はひと握り。若いもんがやってくれんへ」とエールをいただいた。今年の冬は、わら仕事デビューをして、わらじの一つでも作れるようになりたいと思った。(スタッフ指原)



▲福俵

手づくりの正月飾りで、今年は新年を迎えませんか?

年神様を迎える準備!

しめ飾りとミニ門松づくり

参加者募集

日程: 12月6日(土)
時間: 13:30~17:00
集合場所: 九重自然教室(さとぼる)
参加費: 大人500円
子ども300円(小・中学生)
定員: 20名程度
申込締切: 12月1日(月)

お申込みは…九重ふるさと自然学校 TEL: 0973-73-0001



参加者募集!

11/29-30 冬のボランティアワークキャンプ

野焼きに向けた
防火帯整備

&

ドラム缶炭窯での
炭焼き体験!



日時: 11月29日(土)13:30~30日(日)14:00

集合場所: 九重自然教室(さとぼる)

参加費: 無料

対象: 社会人および学生

定員: 14名

申込締切: 11月21日(金)

お申込みは…
九重ふるさと自然学校
TEL: 0973-73-0001

プログラム実施報告

ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました!

9/20 トキもすめる田んぼづくり 稲刈り



黄金色に輝く稲穂を昔ながらの手刈りで収穫しました。一株ずつ丁寧に刈った後、わらひもで束ねてから掛け干しへ。この掛け干しがお米の旨味を高めます。活動中は、カエルなどの生きものも発見。収穫の楽しさもあって笑顔あふれるひとときでした。

10/11 田んぼの生きものしらべ 秋



田んぼから水がなくなっている今回は、田んぼ内にいたドジョウやマツモムシなどがピオトープへ移動していることを確認できました。また、採集した生きものの中に絶滅危惧種の水生昆虫が確認されるなど、自然共生型の田んぼづくりの効果を一層感じられるプログラムでした。

10/25・26 九重ふるさと祭り 番外編



九重町民のお祭り「九重ふるさと祭り」に自然学校もブースを出展しました。実施したのはバードコール作り(1日目)とセミ笛作り(2日目)の体験。連日好評で、それぞれ見事に「鳥の声」、「セミの声」を再現することができました。